

喜界町



# 議会だより

162号

平成28年1月26日発行

発行／喜界町議会 編集／議会広報編集委員会  
〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地  
TEL:0997(65)1115・FAX兼用



平成28年 初日の出(中西公園)

主  
な  
内  
容

常任委員会報告 ..... 2

所管事務調査報告 ..... 6

一般質問に5名が登壇 ..... 9

諸般の報告 ..... 13

読者の声・編集後記 ..... 14

# 平成27年度 一般会計補正予算は 1,423万円を追加して 60億2,878万円に

## 常任委員会報告

平成二十七年第四回定例会は、十二月九日から十七日までの九日間開催されました。  
初日は、一般質問（議員五名登壇）。平成二十七年年度一般会計補正予算・特別会計補正予算・条例等十件については、各常任委員会に付託しました。また喜界町議会議員定数条例の一部を改正する条例については全会一致で可決しました。

最終本会議には、平成二十七年年度喜界町一般会計補正予算、特別会計補正予算及び条例等十件を可決し、追加提案された工事請負契約二件は、原案のとおり可決、固定資産評価審査委員会委員の選任については、全会一致で同意しました。

### 総務文教委員会



総務文教常任委員長  
外内 千里 議員

#### 一般会計

##### ■歳入について

歳入の増額は、普通交付税の三千八百二十六万円、県支出金の選挙費委託金は、平成二十七年十一月二十九日無投票であった、海区漁業調整委員会委員補欠選挙委託金の三十二万九千円、前年度繰越金

##### ■歳出について

で二百七十四万三千円の増額。

歳出の増額は、財産管理費の二百二十万円は庁舎の業務用空調点検料と、手久津久集落公民館トイレ改修費。交通安全対策費の百二十万円はロードミラーの設置、撤去費。諸費の百万円は、町税還付金の不足により増額。ふるさと寄付金事業の八十一万円は、ふるさと寄付金に対する贈呈する物産品購入費と送料費。税務総務費四十九万円の主なものは、各集落での納税事務対応の備人料二名分。民生費の地方改善施設整備

事業の二百万円は、水道工事に伴う湾地区の道路整備費。

道路維持費の九十七万二千円の主なものは、赤連・羽里線他の道路側面六kmの草刈り等のため増額。

港湾整備費の百三万円は、志戸桶港、浦原港の航路標識の補修。

住宅管理費四百四十万円は畑地近くにある、佐手久第二団地がスプリンクラーや薬剤散布時に対応できるように整備。

中学校費の七十三万五千円は体育館入口の手すり腐食しているための修繕料。

文化財保護費の備品購入費三十万円は、埋蔵文化財センターの保管遺物の保存環境を

整えるため収蔵環境調査用温湿度観測装置を購入。

保健体育総務費の工事請負費六十万円は、来年度開催される大島地区軟式野球競技の会場として使用する、荒木グランドにバックネットを整備する。

##### 【減額の主なもの】

幼稚園費の三十四万八千円の減額で、預かり保育の補助員の減と免許保有しないため単価が減額されたことにより百万円減額し、のぞみ幼稚園のがじゅまる剪定代として六十五万二千円増額する。

## 【質疑の主なもの】

ふるさと寄付金について

**質疑** 贈答品の金額はどの程度考えているか

**答弁** 贈答品は二〜三割を考えている

**質疑** どのような物産品を考えているか

**答弁** 贈答品はマンゴー・メ

ロン・焼酎・黒糖等の詰め合わせ、車エビ等を考えている

**質疑** ふるさとチョイスの効果はどうか

**答弁** 昨年と違う方々からの寄付が増え、ふるさとチョイスの効果が表示されている

**質疑** 現在の寄付金の額はどの程度であるか

**答弁** 寄付金の額は十二月四日現在で三百九十万四千円である。

## 荒木グラウンドバックネット整備について

**質疑** どのような整備をするのか

**答弁** 昇降式を予定している

**質疑** グラウンドは集落の所有であるが、管理はどうするのか

**答弁** 管理は野球連盟が行なう

## 産業福祉委員会



産業福祉常任委員長  
安田 英次郎 議員

### 一般会計

平成二十七年年度喜界町一般会計補正予算（第三号）について

### 住民課所管

歳出は、戸籍住民基本台帳費百十六万円の増額は、備品購入費でマイナンバーカード認知システム購入等です。環境衛生総務費十五万円の増額は、屠畜場事業特別会計への操出金です。

### 保健福祉課所管

### 歳入について

民生費国庫補助金十一万七

千円の減額は、女性特有のがん検診推進事業補助金で、今年度より委託料が該当しないので減額するものです。

### 歳出について

社会福祉総務費二十万九千九百円増額は、介護保険特別会計操出金です。

高齢者福祉費三十六万円増額は、配食サービスの利用者の増によるものです。

母子保健事業費九万円の増額は、三歳児検診を県病院の医師に委託するために増額するものです。

健康増進事業費百六十万円の増額は、高齢者のインフルエンザ予防接種委託料でワクチンの値上げに伴うものです。児童福祉費総務費（保育所運営費）千三百八十四万三千円の増額は、児童数の増によるものです。

放課後児童クラブ運営事業費三十三万九千円の増額は、水回り関係の消耗品二十一万三千円、ドア鍵の取替等の修繕料六万二千円、光熱水費六万四千円です。



審査する総務文教委員会

児童発達支援事業費十九万六千円の増額は、燃料費一万三千元とすべり台の修繕料十八万三千元です。

## 農業振興課所管

### ■歳入について

農林水産業費県補助金五千七百五十一万九千円の減額は、平成二十七年実施予定の事業を二十八年度に実施するためです。

農林水産業費委託金百三十三万円の増額は、農地中間管理事業機構集積協力金です。物品売払収入七十七万円増額は、パッション苗の増によるものです。

### ■歳出について

園芸振興費五十万円の増額は、アグリ施設を整備するための原材料費です。

家畜診療所運営費百九十七万二千円の増額は、医薬品の材料代等です。

喜界町営農支援センター運営費二百九十四万二千円増額

は、園芸に係る、容器代及び肥料・農薬代等の消耗品百四十九万四千円と倉庫の扉等の修繕料百四十四万八千円です。

特殊病害虫防除対策費三十二万四千円は、テックス板（ミカンコミバエ誘殺板）を千二百箇所に設置するためです。

奄美農業創出支援事業費六千五百万円の減額は、園芸用ハウスを建てる予定でしたが、二十八年度に実施するためです。

加工販売施設運営費百六十一万円の増額は、消耗品の購入や、ボイラー室の修繕等で百五万四千円、備品四万九千円、アンテナショップ事業推進負担金五十万七千円です。

農地費五十万円の増額は、危険箇所のガードレール等の設置代です。

農地中間管理事業百三十万円の増額は、経営転換協力金二百萬減額、耕作者集積協力金二十萬減額し、地域集積協力金を三百五十萬円増額するものです。

## 特別会計

### 平成二十七年喜界町国民健康保険特別会計補正予算（第二号）について

歳入歳出予算にそれぞれ八百九十二万三千円を追加し、歳入歳出予算の総額を十三億二千五百九十一万七千円、直営診療施設勘定の歳入歳出予算にそれぞれ百三十二万二千円を増額し歳入歳出予算の総額を二千六百八十七万六千円とするものです。

### ■歳入について

一般被保険者国民健康保険税二百四十二万七千円の増額は、十月末現在の実績により滞納分を増額するものです。

共同事業交付金六百四十九万六千円の増額は、概算確定による高額医療費共同事業交付金です。

### ■歳出について

一般管理費三十二万四千円

の増額は、国保データベースのシステム改修費です。

一般被保険者療養給付費千五百万円の増額、退職被保険者等療養給付費千二百萬減額、一般被保険者高額療養費八百九十二万五千円の増額、退職被保険者等高額療養費三百三十二万六千円の減額は、四月からの実績によるものです。

## 直営診療施設勘定

### ■歳入について

外来収入百三十一万四千円の増額は、国民健康保険診療報酬収入六十万三千円、社会保険診療報酬収入三十万円、一部負担金収入四十一万一千円です。

### ■歳出について

一般管理費四十四万二千円の増額は、デジタル画像診断システム機の修繕料十六万五千円、光熱水費十五万円、検体の送料等十二万七千円です。医療用消耗機材費八十八万

円増額は、薬代等です。

### 平成二十七年喜界町介護保険特別会計補正予算（第二号）について

歳入歳出予算にそれぞれ百三十九万四千円を追加し、歳入歳出予算の総額を九億一千三百五十二万三千円とするものです。

### ■歳入について

国庫補助金十五万円、支払基金交付金十六万八千円増額は、元気度アップポイント事業に係る交付金です。

県補助金六十七万五千円増額は、地域支援事業交付金七万五千円、高齢者元気度アップポイント事業費補助金六十万円です。

### ■歳出について

一般管理費十一万一千円増額は、運営協議会委員報償費六万円、旅費五万一千円です。賦課徴収費二万三千円の増額

は、印刷製本費です。

一次予防高齢者施策事業費百二十万円の増額は、元気度アップ事業に係る商品券分です。償還金及び還付加算金六万円増額は、保険料の還付金です。

### 平成二十七年喜界町

#### 老人福祉施設特別会計補正予算(第号)について

歳入歳出にそれぞれ八百二十七万円を追加して歳入歳出をそれぞれ三億八千四百八十三万四千円とするものです。

#### ■歳入について

居宅介護サービス費収入千五百一十一万円、施設介護サービス費収入千六百九十一万円の総額三千二百二万円増額し、自己負担金収入も三百万円増額するものです。それに伴い、老人福祉施設事業繰入金を二千六百七十五万円減額するものです。

#### ■歳出について

施設管理費三十七万円増額は、薬剤等の購入費です。施設介護サービス事業費七百九十万の増額は、消耗品費のおむつ代等四百三十万円、賄材料費の栄養食品代等三百六十万円です。

#### 【質疑の主なもの】

**【質疑】** ホーム職員の処遇改善は、なされているか

**【答弁】** 一月より介護職員の賃金を上げ、また四月にさかのぼって年度末に支給する予定です。

### 平成二十七年喜界町

#### 屠畜場事業特別会計補正予算(第号)について

歳入歳出予算にそれぞれ十五万円を追加し、歳入歳出予算の総額を三百八万円とするものです。

歳入は、一般会計からの繰入金で、十五万円の増額で、

歳出の総務管理費の十五万円増額は、ボイラータンクを取替るための修繕費です。

### 平成二十七年喜界町

#### 簡易水道事業特別会計補正予算(第号)について

歳入歳出予算にそれぞれ一千三百二十万円を追加し、歳入歳出予算の総額を十五億三千四百十三万八千円とするものです。

#### ■歳入について

衛生使用料二百萬減額は、平成二十六年の実績と、これまでの収納状況から、減額するものです。

雑入一千五百二十万円の増額は、消費税還付金一千三百二十万円、消火栓設置工事負担金二百万円です。

#### ■歳出について

総務管理費六百三十万円の増額は、検針用の端末機の購入費で三十万円、簡易水道事

業基金積立金六百万円です。

一般管理費六百九十万円増額は、メーターを購入(五百二十基)で百九十万円、修繕料五百万円です。

#### 【質疑の主なもの】

**【質疑】** 修繕料五百万円の内訳は

**【答弁】** 東部地区の電気透析装置とポンプの入れ替え等です。



審査する産業福祉委員会

# 所管事務調査報告

## 総務文教常任委員会

委員長 外内千里 議員

十一月十六日から十九日まで佐賀県唐津市、多久市、福岡県糸島市へ行政視察を行いましたので、その目的と経緯と成果について報告いたします。十一月十七日唐津市では「ICT活用のまちづくり」と「ゆるキャラ活用」について研修をしました。

ICT活用まちづくりについて、唐津市は平成二十四年度総務省補正予算ICT街づくり推進事業として「唐津ブランド戦略支援型、防災減災システム」の採択を受けております。

事業はインターネットサイトのスマホアプリの「唐津ブランド発見地図」を平常時は観光情報を地図情報にのせて発信、利用者が情報を投稿することで共有する観光利用、掲示板利用として、災害時には切り替えることにより集合

場所、避難路誘導などが表示される「防災マップ」として対応ができるシステムとなっております。その他市内に四か所設置した気象センサーのデータを一分おきに気象データ公開サーバーに送信し、唐津市防災センターでの異常気象監視の利用や、農業利用として活用しております。また唐ワンカードを発行しメールアドレスを登録していただくことにより会員の利用促進をはかり、市内二十か所での電子スタンプラリーや協賛店のチェックイン・サービス・特典ゲットなどの登録利用メリットを提供するなど会員サービスを充実させております。その他にも独居高齢者の見守りサービスの実証も行うなどICT街づくりを推進しています。

イメージキャラクター「唐ワンくん」は、市町村合併により、唐津市が誕生して四年目、また唐津城築城四百年を

迎え、より結束し未来に向かう決意のもと、二〇〇八年四月に誕生しました。

「唐ワンくん徹底活用事業」は「厚生労働省ふるさと雇用再生特別基金事業」の採択を受け平成二十一年から二十三年まで市が運営、現在「NPO法人唐津市子育て支援情報センター」に委託しています。活動内容は、市内外イベントへの出演、メディアへの出演・取材対応、幼稚園等の情操教育協力、おもてなし活動などに積極的に活動しています。実績としては、ブログアクセスが百九十万、ユーチューブ動画再生回数が十二万、ホームページアクセスが七万、その他、テレビ出演での宣伝効果が平成二十二年度だけでも一千五百万余りと試算しています。現在は唐ワンくんの私的な出演要請には、市内で三千円、市外では旅費別途五千円に対応しています。本研修では、ICTの

多様な活用と、補助事業の活用、本町のよろこびとの出演方法など、色々な方法を示唆していただきました。



唐津市「唐ワンくん」

午後からは、多久市で「ICT活用による教育」と「小中一貫教育」・「教育全体」について研修をしました。

多久市は平成二十五年四月から、市内の七校の小学校と三つの中学校を三つの小中一貫校に再編し、小中一貫教育

をスタートさせております。日々の教科学習でのICTツールの活用では、平成二十一年度に全小中学校で全教室に電子黒板の設置と各ソフトを整備し、さらに各学校一名の専属ICT支援員を配置し、さらに全教員を対象とした研修を行い、教員のICT活用指導力一斉向上に取り組みなど、ハード、ソフト両面からICT活用環境を整えています。

ICT活用による教育については、シャープが、多久市五年生全員に二百台のタブレット端末を提供し、実証研究を行っています。すべての子どもの学力保障を実現するために開発した「デジタル版学力到達達成診断」で、各児童の学習課題の分析を行いいます。分析による学習の習熟度に応じた「デジタルプリント教材」で知識理解の定着を図り、教員は自ら保有するパソコンで、学校向け教育支援シ

STEM「スタディシリーズ」を活用し、各児童の教材の進歩度合や回答に至るまでの所要時間など、学習状況を細かく把握し個別の適切な指導するシステムで、多久市がICT活用が進んでいることで選ばれております。

小中一貫教育では小中学校の全教員が同じ職員室で情報を共有し、九年間を見据えた指導を推進できること、教員がお互いに乗り入れ授業ができる、小中学生がグループ学習などで、中学生が教えることで基本的内容の復習につながるなど学力向上につながる点、その他にも、教員が9年間通じて子供たちを支えることで中一ギャップが減らせた、中学生が小学生の手本とならねばとの意識が芽生えるなどの精神面でのメリットも生まれてきているとのことでした。

教育全般については、教材「多久学のすすめ」では多久出身の偉人編、産業編、生活編、名所自然編と多久市の誇りである「多久聖廟」、炭鉱の歴史を中心に小中一貫授業

に取り入れております。以上で多久市の研修を終えました。多久市の教育に向き合う、徹底とした時代の流れに向き合う教育、孔子につながる「論語のまち」を目指し人間学を培う姿勢に改めて敬意を表しました。本町も大いに見習うべきものと感じました。



多久市での研修

多久市での研修を終え次の視察地福岡県糸島市へ、糸島市は平成二十二年に前原市と二丈町、志摩町が合併し誕生しております。

糸島市では「糸島共創プラ

ンの取り組み」について研修をしました。

取り組みの背景と経緯については、合併時に新しく誕生した糸島市の重点プロジェクトとして「校区まちづくり推進」が掲げられ、地域特性を生かした課題解決型の校区まちづくりを積極的に推進することとしており、実現に向けて、校区を単位としたコミュニケーション組織に対し人的、財政的支援を行うとしています。目的は「地域の課題は地域で解決する」「地域でできることは地域で行う」との考えに立ち地域住民が主役、地域資源を有効活用して校区まちづくりを目指しています。

事業内容は、市内十五校区の「校区まちづくり事業（いとしま共創プラン）」を推進するための財政支援の枠組みとして、平成二十二年から平成二十五年までの支援額は、実践活動事業、補助率九十%で五十万円まで一年間三事業。施設整備事業は、補助率九十五%で限度額五百万円。事業全体予算で市民税の一%

の年間四千万円を見込んでいます。平成二十六年以降四年間については事業区分を廃止し、補助率を九十%とし限度額を百万円で事業数の制限を撤廃しています。その他にも各校区三名から八名の支援班として職員を配置し、校区の拠点である公民館のサポートを行っています。またNPOやボランティアセンターによるサポートを行っています。各校区で実施されている事業は、安全安心事業として、青パト購入による定期的防犯パ



糸島市での研修

トロールの実施、公園や駅近辺の犯罪防止のための防犯カメラの設置、福祉事業でふれあい弁当の配布、声かけ運動、高齢者が身近で集まれる場所の設置支援、文化事業では、伝統文化の後継者育成、九州大学生による学習支援事業や、留学生との交流事業などさまざまな事業を行っています。

本町でも高齢化と人口の減少が加速している。ことに学校再編により校区の地域力が先細りしており、今後なんらかの対応が必要と思われる。

### 産業福祉常任委員会

委員長 安田 英次郎 議員

当委員会は、所管事務調査として、十一月二十八日に徳島県勝浦郡上勝町を視察いたしました。

四国で一番小さな町で、標高百mから七百mの間に大小の集落が点在し、総面積百九六八km<sup>2</sup>です。町の八十九%が山林で内八十二%が杉となっ



上勝町役場での研修

ています。人口は、十月一日現在一千七百一人、八百三十四世帯で高齢化率五十一・九%という、少子高齢化が進んでいる町です。日本で最も美しい村連合にいち早く加盟しているまちで、環境理論に基づく「持続可能な地域社会づくり」をめざし循環型社会をリードする町として全国各地から年間四千人近くの視察研修があります。

高齢者や女性に出番をと、彩（いろどり）事業を展開し、料理のつまものとしての「葉っぱビジネス」で現在販

売額は二億六千万円になっており、中には一千万円以上稼ぐおばあちゃんもいます。二百戸の葉っぱビジネス農家中で百五十戸が光ファイバーを使ったパソコンやオリジナルタブレットの開発システムは高齢者の方でも使いやすい工夫がなされているのが特徴です。

次にごみを資源にという事で、全国に先駆けてゼロ・ウェイスト宣言（ウェイストとはムダ・浪費）をしています。家庭からの生ゴミは、行政の



ゼロ・ウェイストアカデミー職員による説明

補助で機器を全戸に導入し、現在、家庭・業者（飲食店関係）からの生ゴミは全くありません。三十四分別の資源ゴミはリサイクル業者を行政が自らがして取り組んでいます。

過疎化が進む町に、後継者をといることでインターショプ事業を行っています。この

事業は、研修から定住へと全国より応募を募り、五年間で五百名を超える若者が集まり、三十名が町内に移住就業しています。まちづくり基本条例の中に於いて美しい集落再生プラン支援補助金を交付しておりIUターナーで、五十歳以下で五年以上定住するものに対し住宅補助として、空き家活用のリホームや新築住宅の工事費として百万円を限度とした補助金を交付しています。また研修のために、シェアハウス、ゲストハウスも整備されており、宿泊費は無料で交通費や食事費は、全て自己負担にもかかわらず毎年多くの若者が訪れるのは、NGOを含めた五団体セクターに

よる受入体制が充実しているのが特徴でもあります。他にも山間部の過疎地域の交通手段として有償ボランティア事業を実施し、町民それぞれが支え合うまちづくりがなされています。

十一月二十九日福岡市学校法人きりん幼稚園を表敬訪問しました。

きりん幼稚園は、十年来喜界島へ大型バス数台で、夏休みを利用して小学生（園の卒業生）低学年から高学年の編成で町内ホテルに宿泊し、小野津の海水浴場を中心に体験学習を行います。当日きりん幼稚園を訪問の祭、先生方と園児が（ようこそきりん幼稚園へ）のプラカードで出迎えてくださいました。園の説明の中で、福岡市には、公立の幼稚園はなくすべて私立との事でした。その後、喜界島へ来島して感じ、感動したことなどを二名の小学生と、高校生が発表してくれました。

友枝美栄子理事長より長年に渡り小野津集落の河上議員と集落で活動するシーマス

ターズへの感謝の言葉がありました。また喜界島を紹介する観光物産店等の企画があれば福岡博多大丸百貨店での出店ブースを確保しますとのことでした。交流人口はもとより、経済効果も少なからず大きいがあります。町長のトップセールスで実現していただきたいと思えます。



きりん幼稚園職員・園児による歓迎

町政のここが聞きたい

# いっぱん質問

第4回定例会で5名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。  
質問と答弁を要約して紹介いたします。



質問する  
矢野 弘 議員

**農業振興に関する質問**

**質問**

奄美大島本島では、ミ

カンコミバエが急増し果樹類や野菜類など移動規制がかかり、まん延防止の為に廃棄処分が決定され生産農家は大きなダメージを受けています。新聞では三百キロも離れた屋久島でも発見されているようです。幸い喜界島には侵入していないとの報道でしたが、本当に侵入していないのか、たまたまトラップに捕まっていないのではないのか、鳥からの移動規制がかかることはないので、またすぐ隣の島からいつ飛んでくるかわからない状況の中で今後どのような対策を考えているのか。

**答弁** 町長

ミカンコミバエ侵入については色々情報が入っていますが、本町でのトラップ

誘殺は確認されていません。

**質問**

**投票率の向上に関する質問**

**質問**

近年、若者をはじめとする有権者の投票率が低下傾向にある中、有権者が投票しやすい環境を一層整備し、投票率の向上を図っていくことは喫緊の課題です。二十八年の参議院選挙から選挙権が十八歳に引き下げられることも見据え、有権者一人一人に着目しさらなる投票機会の創出や利便性が求められています。喜界町では、昨年の衆院選で六十八・四一%、二年前の参院選で六十八・七四%と低く、さらなる投票率の向上への取り組みが必要ではないかと思われるが、具体的にどのような対策を考えているのか。

**答弁**

藤村選挙管理委員会委員長、公職選挙法の改正に伴い、二十八年六月十九日以降に執行される選挙については、選挙権が十八歳に引き下げられます。

本町では、選挙権引き下げに伴う取組について、喜界高校との連携を図り、十二月十

四日に学校現場において選挙の模擬投票を開催し、政治や選挙への関心を高めるよう啓発を行っています。

平成二十七年十二月一日現在での十八歳以上二十歳未満の住民登録されている人数は、九十人です。

投票率向上の取組については、現在、選挙時において、選挙公報誌の全戸配布、明るい選挙推進委員による街頭での投票の呼びかけとパンフレット・チラシ配布による啓発活動、防災無線・広報車による広報活動、各事業所のポスター設置依頼、懸垂幕・横断幕の設置、各投票所においても



選挙管理委員会による喜界高校での模擬投票

バリアフリー対策としてスロープの設置等を行っています。今後は、現在行っている防災無線・広報車による広報活動の回数等を増やすなど、より一層の啓発を行います。



質問する  
谷本 泰夫議員

### 質問 ゴミの減量について

質問 ゴミの分別を現在より多くし再利用、再資源化へ取り組むことはできないか

答弁 住民課長

現在本町では、ゴミの分別収集を可燃、不燃、PET、缶、ビンの五分別とし、さらに不燃物をクリーンセンター内で蛍光管、乾電池や、昨年九月からスタートした使用済小型家電の三分別を行っており、減量化に向けた取り組みを実施し、再資源化を図っています。分別を細分化するとより一層の住民の協力を必要

としますが、資源化できるものは資源化しながら、3R運動を推進し、住民意識の高揚を図って参ります。さらに、現在稼働しています焼却施設や安定型処分場（粗大ゴミ置き場）の延命化を図るためにも、減量・資源化施策を継続的に実施し、常にコスト意識を持ち、環境への負荷をかけた循環型社会の形成を目指したいと考えています。

質問 生ゴミを各自、自宅で処理し堆肥化するように町民へ啓発活動はできないか

答弁 住民課長

生ゴミについては、平成二十六年年度に「生ゴミ減量・堆肥化モニター」を募集・実施し、モニターの方々からご意見を聴取した結果、コンポストを利用した堆肥化については、生ゴミの水切りや細かく裁断してよく混ぜるといった手間が必要不可欠となり、ある程度の労力が必要となることが分かりました。また、生ゴミ自体の発生を抑制するため「食品ロス」を削減することも有効な手段であると考え

られます。

今後は地域女性団体連絡協議会等、関係団体の協力を得ながら、生ゴミの堆肥化等により、家庭から排出される生ゴミの減量化を広報誌等でも広く普及を図って参ります。



質問する  
乾 和夫議員

### 質問 本町の埋蔵文化財について

質問 城久遺跡群は、国指定文化財となる可能性はあるか。また国指定をうけるためにどのような取り組みをしているのか。

答弁 教育長

国民文化祭のシンポジウムでの先生方の発言にもあったように、国指定文化財となる可能性を十分に秘めた遺跡であると考えています。これまでに、城久遺跡群指導委員会を立ち上げて、遺跡の評価を確定するために、平成十八年

度から年一回のペースで開催し、昨年度には文化庁の補助事業を活用して、「城久遺跡群総括報告書」を刊行しております。

今後は、換地処分後の登記手続きが完了後、同意事務などの諸手続きと遺跡の最終評価をまとめてから、文化庁審議会に意見具申していく予定です。

質問 手久津久・荒木地区の発掘調査については、畑総事業達成のためせっかくの遺構が土として畑にまかれていますのではないかと。城久地区の発掘調査では、埋め戻しの手法で遺構が保存されているが、現在発掘中の保存状態はどうか。

答弁 教育長

城久遺跡群では盛り土をして畑の下で遺跡を保存する方法が採られましたが、手久津久・荒木地区では土の量が少ないために、発掘調査を行ってそれを報告書に記録で保存するやり方で実施しております。そのため、現地では調査終了後は、工事に必要な耕作

土を確保するため、遺構なども跡形もなく重機で掘り下げられているのが現状でございます。

質問 当該土地を買い取り遺構・遺跡を復元し、当地を追体験できる施設にする計画はないか。また、学習や観光の拠点として大いに資すると思うがどうか。

答弁 教育長

現在発掘中の遺跡は、まだ評価が確定していません。歴史的に価値が高い遺構等が判明したならば、その土地については地権者の同意が得られ



製鉄の実験

たら、土地交換か買い取りによつて保存することも考えられます。当時を追体験できる施設の建設となると、施設の建設費や維持・管理費等も相当必要になることから、総合的な検討が必要で、現時点では今すぐ計画を決定・推進するということは困難だと考えています。



質問する  
榮 哲治議員

### 質問 畜産振興について

質問 コントラクター（農業受託組織）の導入は、出来ないか

答弁 町長

一部の畜産農家から要望があり、町とJAならびに畜産農家を交えて検討したところ、先進地を視察した後に、改めて協議し、本町でのコントラクター事業が活かせるか否かを、今後も検討する必要があります。

ると考えています。

### 質問 スポーツ振興について

質問 スポーツイベント・スポーツ合宿のコーディネート事業の設置はできないか。

答弁 町長

スポーツ合宿は、陸上（長距離）のみで、ミキハウス・ホクレンが合宿のため来島しています。

スポーツイベントでは、これまで官公庁との共催で様々なスポーツ教室等を開催しています。これまでは招致に関しては、受入可能な施設に限られていることもあり、積極的な情報提供等はしていません。今後の課題となつていきます。これからの取組は、平成二十三年度に総合型地域スポーツクラブ（本町は、きかい100スポーツクラブ）を行政主導で設立しました。総合型地域スポーツクラブとは、地域住民が無償の行政サービスだけに頼らず、自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのことです。町の財政を

圧迫せず、自主的・主体的に運営し、自治体と連携を図りながら活動していくことから「新しい公共」と呼ばれています。町としては、既存の施設を有効活用しながら、きかい100スポーツクラブとさらに連携を図り、SNS等を活用した情報発信やスポーツ教室の開催等を行いたいと考えています。併せて、喜界町創生総合戦略でスポーツ合宿の誘致補助制度の創設を施策に盛り込んでいきます。



質問する  
峰山 恵喜光議員

### 質問 喜界町ホームページについて

質問 ① 本町はホームページをどのように位置づけているか

質問 ② ホームページの特徴を生かす編集はどのようになっているか

質問 ③ ホームページを運用

する中でどのような反応や成果があったか

質問 ④ これまでのホームページで編集上の課題や今後改善する計画があるか

答弁 町長

喜界町のホームページをどのように位置づけるかについては、第一に町民に対する情報発信ツールとして位置づけています。また、本町に興味を持っていただいた島外の方への情報提供も想定しています。

次にホームページの特性を生かす編集はどのようになっているかについては、広報誌には誌面の都合上により掲載できない記事や速報的にお知らせすべき出来事などをリアルタイムに掲載しています。また、以前は窓口でお渡ししていた施設予約に必要な申請書類のダウンロード、電話や窓口で確認していただいていた施設予約状況もホームページで確認できます。観光や特産品の購入を検討されている島外の方へは、喜界島観光物産協会や宿泊施設のホームページにリンクして

情報提供をしています。また、本町出身者の方へは、戸籍謄抄本等の郵便交付申請書のダウンロードの他、島を懐かしんでいたため広報誌の電子版や、役場周辺のライブカメラ映像を提供しています。

次にホームページを運用する中でどのような反応や成果があったかにつきましては、以前、広報きかいを閲覧する際に重くて開きにくいという苦情が数件ありましたが、電子ブック版を追加することにより解消しました。また、同時にスマートフォンにも対応できるように改善しています。

次にこれまでのホームページで編集上の課題や今後改善する計画があるかにつきましては、本町のホームページは運用を初めて十年になることから保守、管理の面からよりニューラル費用が見込まれることから、普及が進む他の情報発信ツールとの棲み分けも考えながら、慎重に更新時期を検討している状況にあります。今後も、住民サービスや情報提供のツールとしてホームページの充実を図ってまいります。

# 人事

## ○固定資産評価審査委員会委員の選任



固定資産評価審査委員会委員  
上島 文仁 氏

任期は  
平成27年12月22日から  
平成30年12月21日

## 表彰 おめでとうございます

安岡 歡眞議員 総務大臣感謝状を受賞



町議会議員として35年以上在職し、自治功勞の發展に顕著な功勞があったと認められ、総務大臣感謝状が贈呈されました。

## 可決した条例等

- 議案第六十三号  
喜界町行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の制定について
- 議案第六十四号  
鹿児島県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び同組合規約の一部変更について
- 議案第六十五号  
喜界町税条例の一部を改正する条例について
- 議案第六十六号  
喜界町企業立地等促進条例の制定について
- 議案第六十七号  
報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例
- 議案第六十八号  
喜界町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について
- 議案第六十九号  
喜界町介護保険条例の一部を改正する条例について
- 議案第七十号  
喜界町保育の必要性の認定に関する条例の制定について
- 議案第七十二号  
喜界町子どものための教育・保育に関する利用負担額を定める条例の制定について

## 次回 定例会

次の議会は、3月上旬を予定しています。

午前 9:30 皆様の傍聴をお待ちしています。

●お問い合わせ先 65-1115

## 諸般の報告



議長 中島 智一

※九月二十三日、東京喜界郷友会が品川区総合区民会館「きゅうりあん」にて、総会並びに芸能祭が行われました。総会には三百七十名が参加され、事業報告・決算報告の後、友田英助会長の後任として、川嶺出身の郡弘道氏が新会長に指名されました。その後、芸能祭・懇親会が行われました。本会には、議長・教育長・商工会会長が出席しました。

※十月一日、平成二十七年奄美・やんばる広域圏交流推進協議会が徳之島町にて行われました。会長、副会長の挨拶の後、議案の審議と役員改選が行われました。次に「奄美・琉球世界自然遺産登録について」と題し、環境省那覇自然環境事務所長西村学氏による講演が行われました。

※十月十日、鹿児島県離島町村議会議長会で長崎県対馬市の行政調査を行いました。対馬市は、南北八十二km東西十八kmの細長い島で、本島と韓国の中間地点にあり、九十八%が山林、人口三万二千七百六十五人で、平成十六年に六町が合併して対馬市が誕生しました。産業は、漁業でイカ漁が主体です。他には、養殖の鯛・ブリ・マグロ・真珠等です。

また長崎・福岡との交流観光については、対馬空港・長崎・福岡、船舶では定期フェリー及びジェットフォイルで年間二十三万人、国際観光として、対馬・釜山間のフェリーの運行で十九万二千人の利用者がいるとのこと。課題として人口減少が進む中、合併による職員数の削減、若者層の島外流出が進み、市の環境づくり、地域の産業育成が重要な課題と位置づけて、「創造と交流のニューフロンティア・アイランド」の都市づくりを目指して市の活性化を図りたいとのことでした。

## 議会のうごき(12月～2月)

12月3日

大島郡植樹祭(本町)全議員

12月4日

議会運営委員会

12月9日

第四回喜界町議会定例会開会(一般質問)

12月10日

常任委員会(一般会計補正予算等審査)

12月13日

社会教育学級公民館講座合同閉校式

12月17日

第四回喜界町議会定例会閉会

1月2日

成人式(全議員)

1月6日

消防出初め式(全議員)

1月26日

議員研修会(鹿児島市)全議員

2月16日

県議長会定期総会(鹿児島市)議長

2月17日

県町村監査委員協議会定例会及び

研修会(鹿児島市)乾議員

2月25日

市町村長・議長合同会他(奄美市)議長

## \*\*\*\*\* ボランティア活動 \*\*\*\*\*

11月3日役場駐車場にスカシユリの植え付け(360本)を行いました。



「私にとつての喜界島」

安藤 和久 (上嘉鉄)

私が喜界島で暮らすのは四度目である。最初は、上嘉鉄集落に生を受けて高校を卒業するまでの期間だ。喜界島の自然や伝統行事、人情に育まれて人としての基礎を身に付けることができた。

二度目は、東京での学生生活を終え、就職浪人をしていた一年間。喜界高校の非常勤講師をしながら自分の可能性を探しあぐね、悩んでいた時期でもあった。

三度目は、早町中学校の教頭として勤めた三年間。環境整備をしながら、生徒の情操教育に携わることができた。

そして今回は、終活として戻ってきた。家のリフォームをしたり、墓参りをしたり、病院に預けている母親の見舞いをしたりの生活を送っている。(たまにゴルフもしている)このように私にとつての喜界島は、自分の人生そのものである。人生の分かれ道にはいつも喜界島に住んでいる。これからは、周囲の人達とほど良い関係を保ちながら生きていこうと思う。

編集後記

基幹作物のサトウキビが、八万三千トンを見込み四年ぶりの豊作である。また畜産の子牛生産額も過去最高の七億八千三百万を売り上げた。

本町の多様な農業を展開するには、地下ダムの水がかかせない。現在受益面積は耕作総面積の約七割である。基盤整備事業中の手久津久・荒木地区に水資源を利用するには、第二地下ダム整備が必要である。そのためには、キビ作はもちろんであるが、園芸作物を拡大することが急務である。

現在営農支援センターとJAが中心となり新規作物の講習会が頻繁に行われている。大勢の町民が参加し、営農を始めている。第二地下ダム整備について事業化の前提となる地下ボーリングの調査も着手されていると聞く。ぜひ第二地下ダムが実現できることを祈るばかりである。

文責 榮 哲治  
議会広報委員会

委員長 生駒 弘  
副委員長 峰山 恵喜光  
委員 外内 千里  
委員 榮 哲治  
委員 谷本 泰男  
委員 河上 弘仁